

《詩部門》



八木敬彬さん

《俳句部門》



西井武雄さん

入選の
みなさん

《短歌部門》



瀬戸川好江さん

《童謡作詞部門》



西村 毅さん

《川柳部門》



大森郁子さん

入賞者決まる 第2回 高梁市文学選奨

第2回高梁市文学選奨の入賞者が決まりました。6部門55点の中から、入選5点と佳作12点が選ばれました。

入賞作品は、本年度中に小冊子「高梁の文学」として発刊し、童謡作詞部門の入選作品は、曲を付けて来年度の童謡まつりで発表する予定です。

◆各部門の入選と作品名

- ▽詩：八木敬彬(65) 〓落合町原田 〓「いるかうオツチング」
- ▽短歌：瀬戸川好江(74) 〓備中町平川 〓「過ぐる風あれば」
- ▽俳句：西井武雄(90) 〓落合町近似 〓「季節」
- ▽川柳：大森郁子(66) 〓高倉町大瀬八長 〓「孫」
- ▽童謡作詞：西村毅(54) 〓中井町西方 〓「ユキちゃん」

※小説・随筆等部門の入選は該当者なし

◆各部門の佳作

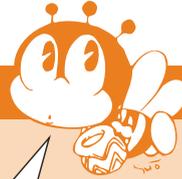
- ▽小説・随筆等：三村節子(伊賀町) 〓詩：(一席)名嘉美智乃(岡山市・市内通学者)、(二席)黒川晴香(岡山市・市内通学者)、(三席)中村房枝(玉川町玉) 〓短歌：(二席)川上孝子(玉川町玉)、(二席)江草照子(成羽町下原)、(三席)小林佐(成羽町中野)、(四席)榎上秀雄(備中町西山) 〓俳句：(一席)柳井明好(成羽町成羽)、(二席)長谷川祐子(成羽町下原) 〓川柳：西井武雄(落合町近似) 〓童謡作詞：角瀬君子(中井町西方)

■問い合わせ

社会教育課文化係

(TEL) 9083

マナビ通信 その②



全国生涯学習フェスティバル
マスコットキャラクター
「マナビ」



公民館フェスティバル2006
に参加して
～ちぎり絵体験コーナー～

体験コーナーで指導した
左から島田律江さん(巨瀬町)、吉村美穂子さん(和田町)
(高梁公民館ちぎり絵講座生)

「教える立場を経験したことで、普段は気付かない発見もあり、これからの活動にも生かせそう」と島田さん。

吉村さんは「初めての人でも気軽に体験してもらえるようハガキのちぎり絵を用意し、押し付けにならないアドバイスを心がけました。何かを学ぶっていいものです。皆さんも気軽に始めてみては」と話してくれました。



今回は、生涯学習の拠点施設「公民館」についてお話しするね。市内には、各地域に公民館が15館あって、成羽・川上・備中地域には、分館が合わせて20館あるんだ。公民館は、生涯学習に役立てる社会教育のための施設。市民のみんなが自己形成を目指してお互い学習し、また文化・レクリエーション活動を通じて交流を深める場なんだ。

公民館では、いつでも気軽に参加できる趣味の講座などを開講しているよ。

11月25日・26日の2日間、文化交流館で開催した「高梁市公民館フェスティバル2006」では、公民館講座生の作品展や発表会があったんだ。ご覧になって、いろいろとチャレンジしてみたくなったのではないかな。

■問い合わせ

社会教育課生涯学習係

(TEL) 9083

シリーズ
社会福祉事業の先駆者

留岡幸助 ②

青年期の留岡幸助

明治13(1880)年、16歳の時、友人が「西洋講師がやつて来た！」と誘いに来たので聴きに行く。4、5回通ううちに「土族の魂も、町人の魂も神の前では同じ値打ちである」との話を聴き、8歳の時以来の身分差別の深いうらみが消え、人間は皆同じであるとの考えに感動した。キリスト教にはもつと素晴らしい教えが隠されているのではと熱心に講義所に通い、キリスト教を信じるようになった。

キリスト教が高梁に伝わったのは明治12(1879)年。この年、最初の県議会議員に選ばれたのが柴原宗助である。柴原は岡山で自由民権思想やキリスト教にふれ、10月4〜6日、高梁小学校で演説

会を開いた。その時中川横太郎の自由民権や金森通倫のキ

リスト教の話がなされ、金森はその後毎週、高梁に講義所を開いて伝道した。また、岡山病院で西洋医学を教えていた宣教師ペリーは柴原の世話で新町の重屋旅館の一室に月1回3日間診療所を開いた。高梁の医師達は助手を務め、西洋医学を学んだ。優れた医療を持つペリーがすべての人に平等に接する態度に感じ、キリスト教の信仰に入る人もあった。このように新しい考えや生活が入ってくる。また13年には新島襄の伝道もあり、キリスト教信仰者も生まれた。

12歳から行商に出かけ、のどが乾くと谷川の水を飲んでいた幸助はやがてやせてせきこみ、時に血を吐いた。父は商人にするのをあきらめ、赤木

留岡幸助関係地
(地図は現高梁市街)



学に集まる中で演説している。

明治15(1882)年4月、柴原宗助、赤木蘇平、福西志計子など15名が洗礼を受け、岡山教会より二宮邦次郎、飯牧師を迎えて高梁キリスト教会が成立、7月2日に幸助も洗礼を受けて信

徒になつている。なお今の教会堂が出来たのは明治22(1889)年のことである。

一方キリスト教を異端として反発する人々も多く、14年頃より迫害が始まり、17年には礼拝中の教会に石など投げ込まれるなど大迫害が起こっている。父金助は幸助の将来を思い、信仰をやめるよう強く迫った。16年3月一時京都に逃げ、同志社にかくまわれた。その後、帰ったが、父の圧力や警察

署長の説得にも、「信仰は心の問題なので、父でも他のことは聞かぬが信仰については自分の信念を通す」と、自分が正しいと思つたことは絶対に譲らなかつた。父は暴力も振るい座敷に閉じ込めたが言つことを聞かず、16年9月ついに吉田に帰すと

言つて部屋から出して菓子を与えて愚痴を言い、吉田の家に出かけて行った。幸助は離縁になると「今まで可愛がつて育ててくれた父母に恩を返すことが出来なくなる」と脱出を決断し、養女に来ていた夏子に後の結婚を約束して逃げ出し、ま

ず松村牧師の所に行つて決意を話し、路銀をもらつて夜通し歩いて岡山に出た。金森牧師などの助けで四国今治に逃れ、教会活動や伝道の手助けをして

いた。

20歳になり、徴兵検査を受けなければならないと家族が害を受けるのを意を決して高梁に帰つたが不合格になつた。この時父金助と和解が出来、彼の許可を得て同志社に進学することになつた。

(文・児玉 亨さん)